

令和 8 年（2026 年）上半期火災・救急・救助の概要について

火 災 概 要

令和 8 年上半期の火災発生件数は 11 件で、前年同期と比べ 5 件の増加となっている。火災種別ごとに前年同期と比較すると、建物火災が 3 件で 1 件の減少、車両火災が 1 件で 1 件の減少、その他の火災が 7 件の皆増となっている。

火災による焼損棟数は 3 棟で、前年同期と比べ 5 棟の減少となっている。これを焼損程度ごとに前年同期と比較すると、全焼が 2 棟で 2 棟の減少、部分焼が 2 棟の皆減、ぼやが 1 棟で 1 棟の減少、焼損面積は床面積が 510 平方メートルで 99 平方メートルの増加、表面積が 10 平方メートルの皆減となっている。

火災による人的被害は死者が 1 人、負傷者が 3 人のそれぞれ皆減となっている。

り災世帯については、全損が 4 世帯の皆減、小損が 1 世帯で 2 世帯の減少、り災人員は 2 人で 19 人の減少となっている。

火災損害額合計は 4,403 万 9 千円で、前年同期と比べ 2,890 万 9 千円の減少となっている。

これを損害種別ごとに前年同期と比較すると、建物損害が 4,403 万 7 千円で 2,535 万 8 千円の減少、車両損害額が 354 万 6 千円の皆減、その他の損害が 2 千円で 5 千円の減少となっている。

出火原因の状況については、放火が 4 件、火入れ、その他が各 2 件で、こんろ、火遊び及び不明が各 1 件となっている。

今後もさらに火災発生防止の徹底を図り、防火広報やパトロールの強化及び警察との連携強化に努めるとともに、市民や各事業所と一体となって、放火されない環境づくりに取り組み、安心・安全な暮らしの実現を目指す。

火災状況

区 分 \ 年 別			令和8年 (2026年) 上半期	令和7年 (2025年) 上半期	前年との 比 較
出 火 件 数 (件)	建 物 火 災		3	4	△ 1
	林 野 火 災				
	車 両 火 災		1	2	△ 1
	船 舶 火 災				
	航 空 機 火 災				
	そ の 他 の 火 災		7		7
	合 計		11	6	5
焼 損 棟 数 (棟)	全	焼	2	4	△ 2
	半	焼			
	部 分	焼		2	△ 2
	ぼ	や	1	2	△ 1
	合 計		3	8	△ 5
焼 損 面 積	建 物 (㎡)	床 面 積	510	411	99
		表 面 積		10	△ 10
	林 野 (a)				
人 的 被 害 (人)	死	者		1	△ 1
	負	傷 者		3	△ 3
り 災 世 帯 (世帯)	全	損		4	△ 4
	半	損			
	小	損	1	3	△ 2
り 災	人 員 (人)		2	21	△ 19
損 害 額 (千円)	建 物 損 害		44,037	69,395	△ 25,358
	林 野 損 害				
	車 両 損 害			3,546	△ 3,546
	船 舶 損 害				
	航 空 機 損 害				
	そ の 他 の 損 害		2	7	△ 5
	爆 発 損 害				
	合 計		44,039	72,948	△ 28,909
1 日平均損害額 (千円)			243	403	△ 160
市民 1 人あたりの損害額 (円)			616	1,017	△ 401
火災 1 件あたりの損害額 (千円)			4,004	12,158	△ 8,154
建物火災 1 件あたりの焼損床面積 (㎡)			170	103	67
出 火 率 (件／万人)			1.5	0.8	0.7

△は減少を示す

救 急 概 要

令和８年上半期の救急出動件数は２，０４６件、搬送人員は１，９１５人で前年同期と比べ出動件数は２０４件、搬送人員は１７０人減少し、１日平均１１．３件の出動となっている。

事故種別ごとでは、急病１，４７６件、一般負傷３２９件、交通事故１１０件で全体の９３．６％を占め、以下、転院搬送５３件、自損行為１５件、労働災害１３件、運動競技１０件、加害３件、その他３７件となっている。

事故種別ごとに前年同期と比較すると、交通事故２４件、自損行為６件、その他１０件の増加に対し、急病１８９件、一般負傷２８件、転院搬送２０件、火災、運動競技が各３件、労働災害が１件の減少、加害は増減なしとなっている。

搬送人員１，９１５人の傷病程度については、死亡２８人、重症３０人、中等症９０５人、軽症９５２人であり、入院加療を必要としない軽症者が全体の４９．７％を占めている。

事故種別ごとに軽症者の占める割合を見ると、交通事故８５．２％、一般負傷６０．４％、急病４５．７％となっている。

医療機関への収容先については、城陽市内４０．１％、久御山町内２９．０％、宇治市内１７．４％、京田辺市内１０．２％、京都市内２．５％、その他の京都府内０．７％となっている。

市民等に対する応急手当普及啓発活動は、上級救命講習の実施はなく、普通救命講習Ⅰ（３時間）を８回１１６人、その他の講習を２８回１，２２２人に対して実施している。

救急出動状況は、前年同期と比べ出動件数で９．１％減少、搬送人員で８．２％の減少となっている。搬送人員のうち高齢者の占める割合は７０．３％となっており、前年同期と比べると増減はないが、依然として７０％を超える高い割合であり、高齢化社会を象徴する状況が続いている。

また、搬送人員に占める軽症者比率が高いことから、今後も救急車の適正利用について啓発活動を続けるとともに、救急隊現場到着までの空白時間を埋めるため、応急手当普及啓発活動をさらに推進し、救命率の向上に努める。

救急状況

年 別 区 分		令和 8 年 (2026年) 上半期			令和 7 年 (2025年) 上半期			前年との比較			
		出動件数 (件)	うち 管外 (件)	搬送人員 (人)	出動件数 (件)	うち 管外 (件)	搬送人員 (人)	出動件数 (件)	うち 管外 (件)	搬送人員 (人)	
事 故 種 別	火 災				3		2	△ 3		△ 2	
	自 然 災 害										
	水 難										
	交 通 事 故	110		108	86	1	83	24	△ 1	25	
	労 働 災 害	13		13	14		14	△ 1		△ 1	
	運 動 競 技	10		10	13		15	△ 3		△ 5	
	一 般 負 傷	329	3	318	357		341	△ 28	3	△ 23	
	加 害	3		2	3		3			△ 1	
	自 損 行 為	15		12	9		8	6		4	
	急 病	1,476		1,399	1,665	2	1,546	△ 189	△ 2	△ 147	
	そ の 他	転 院	53		53	73		73	△ 20		△ 20
		医 師 搬 送									
		資 機 材 搬 送									
		そ の 他	37			27			10		
合 計		2,046	3	1,915	2,250	3	2,085	△ 204		△ 170	
不 搬 送 件 数 (件)		137			168			△ 31			
出 動 延 べ 員 (人)		6,276			6,930			△ 654			
1 日 平 均 出 動 件 数 (件)		11.3			12.4			△ 1.1			
1 日 平 均 搬 送 人 員 (人)		10.6			11.5			△ 0.9			
1 日 最 多 出 動 件 数 (件)		26			28			△ 2			

△は減少を示す

傷病程度別救急搬送人員状況

事故種別 傷病程度別	急 病 (人)	交 通 事 故 (人)	一 般 負 傷 (人)	そ の 他 (人)	計 (人)	比 率 (%)
死 亡	26	1		1	28	1.5
重 症	28	1	1		30	1.6
中 等 症	705	14	125	61	905	47.3
軽 症	640	92	192	28	952	49.7
そ の 他						
計	1,399	108	318	90	1,915	100.0
軽 症 者 比 率 (%)	45.7	85.2	60.4	31.1	49.7	

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

収容先別救急搬送人員状況

事故種別 収容先別	急 病 (人)	交 通 事 故 (人)	一 般 負 傷 (人)	そ の 他 (人)	計 (人)	比 率 (%)
城 陽 市	543	60	145	20	768	40.1
久 御 山 町	419	24	92	21	556	29.0
宇 治 市	251	13	46	24	334	17.4
京 田 辺 市	144	11	30	11	196	10.2
京 都 市	34		2	11	47	2.5
そ の 他 の 京 都 府 内	8		3	3	14	0.7
他 府 県						
計	1,399	108	318	90	1,915	100.0

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

年齢別救急搬送人員状況

事故種別 年 齢 別	急 病 (人)	交 通 事 故 (人)	一 般 負 傷 (人)	そ の 他 (人)	計 (人)	比 率 (%)
新 生 児	2				2	0.1
乳 幼 児	64	3	10	2	79	4.1
少 年	33	10	7	13	63	3.3
成 人	299	57	34	34	424	22.1
高 齢 者	1,001	38	267	41	1,347	70.3
計	1,399	108	318	90	1,915	100.0

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

新生児：生後28日未満の者

乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者

少 年：満7歳以上満18歳未満の者

成 人：満18歳以上満65歳未満の者

高齢者：満65歳以上の者

救 助 概 要

令和 8 年上半期の救助出動件数は 3 4 件で前年同期と比べ 1 件の増加、活動件数は 2 5 件で 2 件の減少、救助人員は 1 7 人で 2 人の増加となっている。

事故種別ごとの出動及び活動状況では、交通事故の出動件数は 2 件で活動件数が 2 件、建物等による事故の出動件数は 1 8 件で活動件数が 1 6 件、その他の事故の出動件数は 1 4 件で活動件数が 7 件となっている。

事故種別ごとの救助人員及び傷病程度をみると、交通事故では 3 人を救助し、中等症が 1 人、軽症が 2 人、建物等による事故では 1 2 人を救助し、中等症が 8 人、軽症が 4 人、その他の事故では 2 人を救助し、不搬送が 2 人となっている。

前年同期と比べ救助出動件数は増加しており、今後も都市構造の変化により複雑多様化する救助事象に対応するため、救助資器材の整備や訓練を重ね、隊員の知識・技術・体力の向上を図り、安全・確実・迅速な救助活動が展開できるように努める。

救助状況

年 別 事故種別	令和 8 年 (2026年) 上半期			令和 7 年 (2025年) 上半期			前年との比較		
	出 動 件 数 (件)	活 動 件 数 (件)	救 助 人 員 (人)	出 動 件 数 (件)	活 動 件 数 (件)	救 助 人 員 (人)	出 動 件 数 (件)	活 動 件 数 (件)	救 助 人 員 (人)
火 災				1	1		△ 1	△ 1	
交 通 事 故	2	2	3	1	1		1	1	3
水 難 事 故									
風水害等自然災害									
機械による事故									
建物等による事故	18	16	12	20	18	12	△ 2	△ 2	
ガス及び酸欠事故									
破 裂 事 故									
そ の 他 の 事 故	14	7	2	11	7	3	3		△ 1
合 計	34	25	17	33	27	15	1	△ 2	2

△は減少を示す

事故別傷病程度状況

傷病程度 事故種別	活 動 件 数 (件)	救 助 人 員 (人)	傷 病 程 度					
			死 亡 (人)	重 症 (人)	中 等 症 (人)	軽 症 (人)	不 搬 送 (人)	そ の 他 (人)
火 災								
交 通 事 故	2	3			1	2		
水 難 事 故								
風水害等自然災害								
機械による事故								
建物等による事故	16	12			8	4		
ガス及び酸欠事故								
破 裂 事 故								
そ の 他 の 事 故	7	2					2	
合 計	25	17			9	6	2	